



## 「有言実行居士」のひとり言

SAM広島支部長  
(株)ロジタント 代表取締役  
吉田 祐 起



自称「有言実行居士」が時として行き過ぎることを反省しながらの弁ですが、この場をかりて、お詫びします。前月号（Winter 2002）の末尾で、「拙著単行本の（昨）年内出版を目指している」と書きました。「有言不実行」に終わったことを恥じています。ボリュームが4百ページ近くになったことから短縮作業を余儀なくされたためです。今度こそ「年内に」実現する「決意」を秘めて(?)いる次第です。

ところで、「直言居士」はあるが、「有言実行居士」という言葉はあるのかな?と、半信半疑でGoogleとYahooで検索してみました。双方にたった1件だけありました。「…有言実行居士小泉は何故総理大臣としてこの日に靖国に詣でなかったのか?…」と。ある方のエッセイ「きまぐれ日記：終戦記念日雑感」の一節です。そんなことから、この際、この稀有な居士名を隠すことなく使って、ひとり言を述べてみます。

日本人の国民性の一つに、「謙譲の美德」とか、「陰徳の精神」といったものがあります。「不言実行」もその一つですが、その背景には古来の日本人の「武士道」に代表されるような、自らに対して非常に厳しい基準を課していたことがうかがわれます。そうした心理的環境にあっては、他人に宣言せずとも自らの求める事柄について実行が伴わなかった時は、自らを処罰することができたと考えられます。現代の日本人には、そうした厳しさを自らに課すことが欠けた結果、有言実行が自らへの有効な試練になるということも考えられます。

ニュアンスは異なりますが、英語の「assertive, non-assertive, aggressive（自己主張型、非自己主張型、攻撃型）」というのがあります。日本人は概してノン・アサーティブ型。欧米人はアサーティブ型もし

くは、攻撃的と言われる強い自己主張型です。ちなみに、今流行りのホームページは洋の東西を問わずアサーティブもしくは、アグレッシブの結果ではあるでしょう。

欧米社会は何ごとくも契約社会です。日本にそうした契約慣行が根付いているのは労組のある企業の「労働協約」です。お座なりの「就業規則」よりはるかに効力のあるのが「労使協定書」です。契約とは「契りを交わして約束する」ことです。何を約束するかは「明文化」されています。まさに「有言実行」を企業労使が約束し合うことです。

身近なことでそのことを表現すれば、禁酒・禁煙の類の誓いにそれが顕著です。不言実行は時として当事者に逃げ道や言い訳を自らがつくる隙を与えます。有言実行は自ら退路を断って実行を宣言するのですから勇気が要ります。自他共に向けた宣言です。

ひと昔前のことですが、高齢者の健康に造詣の深い広島大学のある名誉教授が「喫煙の害」を講演で語られました。その後のパーティーの席で私が宣言しました。「本日をもって禁煙します! 以後、もしボクがタバコを吸っている姿を見せたら、その場で1万円の罰金を払わさせていただきます!」と。爾來、ノンスモーカーを有言実行して今日に及びます。

オッチョコチョイの「有言実行居士」ぶりを發揮して末尾に記します。「第3回ニューエルダーシチズン大賞」（読売新聞主催）に応募することにしました。「創造的に生きる70歳以上の人を顕彰する」に相応しい言行一致、有言実行居士の生き方を2千字内で自作自演してみます。選外の結果になるか、それともひょっとして? の不安と期待をもってチャレンジしてみます、という有言実行です。